

紙芝居「ぼくの自慢の立科リンゴ」「芦田城」

「お話バスケット」の皆さん

実施日：令和4年9月5日（月）



「お話バスケット」の皆さんを講師にお招きし、創作紙芝居を上演していただいた。まず「ぼくの自慢の立科りんご」では、立科町がりんごを育てるのに適した土地や気候であること、「無袋りんご」といって日光をまんべんなく浴びせてりんご全体を赤く色づけさせる手法を用いていること、また年間を通しての作業を紹介していただき、りんごを育てていく上での工夫や苦勞を教えていただいた。

また「芦田城」の話では、芦田城の当主のことや、武田信玄・徳川家康・真田昌幸などの戦国武将との関係性などを学んだ。今でも保存会の皆さんの手によって、木の宮社や芦田城址が整備され、町の重要な文化財となっているということである。地域の方々の芦田城に対する思いを感じることができた。

【生徒の授業日誌より】

・立科のりんごが1年を通してとても手がかかっていてすごいなと思いました。私たちも前にりんごの花摘みの体験をしましたが、とても大変でした。今は動物対策があるけど、昔は動物や鳥などに食べられてしまう危険性があるから大変だったろうなと思いました。また、バスでいつも通っている芦田に城があったとは知らなかったです。芦田のお殿様は強くて偉大な武士たちと並んでいたのはすごいと思いました。

・りんごが盗まれるニュースを見たり、猿やハクビシン、鳥に食べられると聞いたりします。やっぱり農家の人は大変だと思います。でも今もおいしくりんごが食べられるのは農家の人のおかげだから感謝です。

・りんごについてお話を聞きました。私はりんごの木があれば楽に育てられると思っていましたが、季節によって作業があり、苦勞がかかるのだなと感じました。

・りんごは実が食べられるようになるまでにいっぱい仕事があるということがわかりました。りんごは大切に大事に育てられていることがわかりました。昔、芦田にお城があったことを初めて知りました。

・紙芝居を聞いて、リンゴの作り方や収穫の大変さが伝わってきました。芦田城の話では芦田城にこんなに歴史があったとは思わなかったです。勉強になりました。紙芝居はたくさんの方の協力からできていて、お話バスケットのみなさんのハキハキした話し方で内容がわかりやすく入ってきて本当によかったと思います。